

美作国創生公募提案事業 事業成果報告書

1 事業名：美作国「ミュージアム・マップ」の制作

2 実施団体：公益社団法人 津山市観光協会

3 担当課：地域政策部 地域づくり推進課

4 事業概要

【事業の目的】

2024年秋に開催された「森の芸術祭 晴れの国・岡山」に合わせ、当該マップを制作・活用することにより、芸術祭の会場だけでなく、広く美作エリアの話題作りと認知、及び周遊行動の誘発を目的とする。

5 実施内容

「森の芸術祭」と連携した「ミュージアム」を切り口に、森芸会場だけでなく、民間や小規模の美術館・博物館をも包括的・俯瞰的に表現した案内・宣伝物として、新たに「ミュージアム・マップ」を制作した。

絵地図作家としては日本唯一である「えかき・モノづくり作家『ドウノヨシノブ』氏」にデザインを委託した。（31箇所の施設を掲載）

具体的にはマップの制作・配布、津山市観光協会HPへの掲載（多言語）、JR西日本津山駅構内への看板設置、ドウノ氏の作品展示会（津山まなびの鉄道館）を開催した。

関連事業として西日本旅客鉄道（株）、日本航空（「おかやまハレいろキャンペーン 受入対策事業助成金（森芸関連）」）『日本三大平山城「津山城」を基軸とした特別な体験の提供による岡山県北エリアへのインバウンド誘客拡大事業』』とも連携し推進した。

	
マップの制作	MAP看板の設置（JR津山駅）
	
ドウノヨシノブ先生の作品展示会	イベントでの配布

6 事業実施による成果、効果、今後の課題

（1） 成果、効果

1. 観光客の増加 森芸全体の来場者数 523,156人
参考：津山城（鶴山公園）39,968人（対前年28,834人）
奈義町現代美術館 35,635人（5,534人）
津山まなびの鉄道館インバウンド（台湾観光客45人〔9月4名、10月14名、11月27名〕） ※同館は11月17日に入館者50万人を達成
2. マップのデザインも評価も高く、観光客の利便性の向上や満足度の向上がみられた。
3. 案内ツールとしての活用し地元のおもてなしや会場、交通アクセスの案内に活用できた。
4. 美作エリアへの周遊拡大が図られた。
5. MAPデータを活用した将来の観光施策（鉄道遺産マップ等への転活用）を検討できた。

（２） 今後の課題

- ・事業については一定の成果を上げたが、岡山県や関係自治体、岡山県博物館協会）などともっと連携が必要であった。

本事業で作成したミュージアム・マップが美作エリアの観光振興により多く、効果的に寄与する施策を考えていく必要がある。

- ・今回のアンケート調査方法（サンプルと案内を窓口を設置し、回答していただいた方にMAPを手渡しするという方法）は、各施設が混雑した際に機能せず、目標としたサンプル数に至りませんでした。予算を鑑みながらも、効率的、効果的な調査方法を模索する必要性がある。

７ 県民局と連携した効果及び課題

発足時から美作県民局にも連携を頂いている美作ローカル鉄道観光実行委員会（津山市観光協会が事務局）による「秋のみまさかスローライフ列車」のイベント時にミュージアム・マップを配布。参加者より好評の声を多くいただいた。